

スタート診断テスト

現代文

解答時間 50分
配点 100点

- (1) 解答用紙は、この問題用紙とは別になっています。
- (2) 用紙をもらったら、すぐに教室名・名前を解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (3) 「始め」という指示で、解きはじめなさい。
- (4) 問題は、**1**～**10**まであります。
- (5) 答えはすべて解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (6) 印刷の文字が不鮮明なときは、手をあげて質問すること。
- (7) 「やめ」という指示で、書くことをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

教室名

名前

1 傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選びなさい。

- (1) 人間の日々のイトナみ。 [1] ① 自然の中でエイキを養う。 ② 宇宙ユウエイを試みる。 ③ 隣国とのキヨウエイをはかる。 ④ 大寺院をゾウエイする。 ⑤ エイセイ状態を改善する。
- (2) 目標にトウタツする。 [2] ① 遠足にスイトウを持参する。 ② 好機がトウライする。 ③ ビヨウトウに見舞いに行く。 ④ 朝食にトウフを食べる。 ⑤ 五重のトウを見学する。
- (3) キンベンな性格。 [3] ① 利益をキントウ配分する。 ② 腕のキンニクを鍛える。 ③ 自宅でキンシンする。 ④ ツウキンに電車を使う。 ⑤ キョウキンを開いて話し合う。
- (4) 嫌なことをシいられる。 [4] ① 取り調べでジキョウする。 ② クツキョウな若者に育つ。 ③ 他社製品とキョウゴウする。 ④ 夏休みにコキョウに帰る。 ⑤ キョウリヨクして解決する。
- (5) 情報をバイカイする。 [5] ① ショクバイで化学反応を起こす。 ② ニユウバイが例年より早い。 ③ 庭で草花をサイバイする。 ④ 海外のバイシン制度を研究する。 ⑤ 顕微鏡のバイリツを上げる。

2 次の四字熟語の欠けた一文字を、後の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- (1) 一 [] 一会
(2) 五里 [] 中
(3) 優柔不 []
- ① 霧 ② 夢 ③ 情 ④ 断 ⑤ 期

3 次の熟語の反対語となるものを、後の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- (1) 質疑 [9] (2) 高慢 [10] (3) 模倣 [11]
(4) 依存 [12] (5) 革新 [13] (6) 供給 [14]
(7) 抽象 [15] (8) 穩健 [16] (9) 弛緩 [17]
(10) 興隆 [18]
- ① 滅亡 ② 具体 ③ 緊張 ④ 需要 ⑤ 謙虚
⑥ 自立 ⑦ 保守 ⑧ 独創 ⑨ 過激 ⑩ 応答

4 次の意味の故事成語を、後の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- (1) あっても役に立たないこと。 [19]
(2) 人生のはかなさのたとえ。 [20]
- ① 破天荒 ② 胡蝶の夢 ③ 朝三暮四
④ 蛇足 ⑤ 杜撰

5 次の語句の意味として最も適当なものを、後の各群の①～⑤の中から、それ一つずつ選びなさい。

(1) 威丈高になつて

21

- ① 他人の威を借りて虚勢を張つた態度になつて
- ② 大声を出して相手を威嚇するような態度になつて
- ③ 感情をおさえて気丈で威厳ある態度になつて
- ④ 威圧するようなきつぱりとした態度になつて
- ⑤ 声を高くして威厳を感じさせる態度になつて

(2) 放心

22

- ① 心を奪われてぼうつとなること
- ② 心をとぎ放ちのんびりすること
- ③ 心を決めかねてふらふらすること
- ④ 心を集中して雑念をはらうこと
- ⑤ 心をひらいて受け入れること

(3) 意趣返し

23

- ① 挑発
- ② 配慮
- ③ 説教
- ④ 報復
- ⑤ 予言

(4) 殊勝な

24

- ① まげすぎらいで勝ち気な
- ② しつかりしていて健気な
- ③ なりふりかまわず懸命な
- ④ 古風で献身的な
- ⑤ 礼儀正しく優美な

(5) 酔狂

25

- ① 怠け者
- ② 物好き
- ③ あまのじゃく
- ④ 目立ちたがりや
- ⑤ お調子者

6 次の空欄に入る語として適当なものを、後の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、同じ語をくり返し使うことはできません。

(1) 日本と西欧の建築様式は、26 的である。

(2) 日本人は、ヨーロッパの学問を信じつつ、一方で、自らの歴史や伝統をも保とうとする 27 的な状況に置かれるようになった。

(3) 伝統を軽視することは、自らの歴史を 28 することにつながる。

(4) 歴史を失うということは、自らの 29 を失うことになりかねない。

(5) 自己像とは、自分が最高だと考える像を基準としているがゆえに 30 的なものである。

(6) 日常の、何気ない緩んだ顔を私自身が 31 的に見つめることはできない。

(7) ハトは平和の 32 である。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ① 客観 | ② 逆説 | ③ 絶対 | ④ 捨象 | ⑤ 実体 |
| ⑥ 象徴 | ⑦ 対照 | ⑧ 主観 | | |

7 次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

歴史はある特定の価値観に基づいたある見方を反映したものに過ぎない。もちろん歴史を語る者は客観的であろうとするだろう。しかしたとえ客観的な事実を並べたとしても、すべての事実を漏れなく描くことはできない。恋愛小説が恋愛にまつわる場面だけを描くように、歴史は歴史家が a 考えた事実 b だけを並べたもの c にすぎない。だからこそ私たちは歴史を学ぶ時、教科書に掲載された事実を d 受け止めると同時に、教科書に掲載されることのなかった「事実」について、e 静かに f 思いをめぐらすべきなのだ。言うならば、歴史とは、私たちが学び、知る以上のもの、時の中で g じっくり h 積み重ねられた地層のようなものを深層に秘めているものであることを私たちは知るべきなのだ。

(1) 傍線部(ア)～(ク)の品詞を、次の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- ① 名詞 ② 動詞 ③ 形容詞 ④ 形容動詞
⑤ 副詞 ⑥ 連体詞 ⑦ 助動詞 ⑧ 助詞

- (ア) 33 (イ) 34 (エ) 36
(カ) 38 (キ) 39 (ク) 40 (ウ) 35 (オ) 37

(2) 波線部の文の主語・述語を、次の①～⑥の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- ① もちろん ② 歴史を ③ 語る ④ 者は
⑤ 客観的で ⑥ するだろう

主語……

述語……

(3) 二重傍線部a～cの活用形を、次の①～⑥の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- ① 未然形 ② 連用形 ③ 終止形 ④ 連体形
⑤ 仮定形 ⑥ 命令形

a 43

b 44

c 45

8 次の各問いに答えなさい。

(1) 次に挙げた作者の作品を、後の語群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- 清少納言 46 紫式部 47 鴨長明 48
兼好法師 49 松尾芭蕉 50

- ① 『源氏物語』 ② 『徒然草』 ③ 『方丈記』
④ 『奥の細道』 ⑤ 『枕草子』

(2) 次に挙げた作者の作品を、後の語群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- 夏目漱石 51 森鷗外 52 有島武郎 53
芥川龍之介 54 太宰治 55

- ① 『三四郎』 ② 『鼻』 ③ 『高瀬舟』
④ 『斜陽』 ⑤ 『惜しみなく愛は奪う』

9 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、本文中の信子と照子は姉妹で、共に結婚している。ただ姉である信子には、かつて思いを寄せていた男性が存在し、その男性は妹の照子と結婚してしまった。(設問の都合上、一部省略している部分がある。また、表記を改めた箇所がある。)

柱時計が十時を打った時、信子は懶ものうそうな眼めを挙げて、「俊さんはなかなか帰りそうもないわね。」と言った。照子も姉の言葉につれて、ちよいと時計を仰いだ。これは存外冷淡に、「まだ——」とだけしか答えなかった。信子にはその言葉の中に、夫の愛に飽き足りている新妻の心があるような気がした。そう思うといよいよ彼女の気もちは、憂鬱ゆううつに傾かたむかすにはいられなかった。

A 「照さんは幸福ね。」——信子は冗談のようにこう言った。が、自然とそこへ忍びこんだ真面目まじめな 56 の調子だけは、どうすることもできなかった。照子はしかし 57 らしく、やはり活いき活いきと微笑しながら、「覚えていらつしやい。」と睨にらむ真似まねをした。それからすぐにまた「お姉様あねさまだって幸福の癖くせに。」と、甘えるようにつけ加えた。その言葉がびしりと信子を打った。

B 彼女は心もち睨まぶちを上げて、「そう思っつて？」と問い返した。問い返して、すぐに 58 した。照子は一瞬間妙な顔をして、姉と眼を見合わせた。その顔にもまた蔽おほい難い後悔の色が動うごいていた。信子はしいて微笑した。——「そう思われるだけでも幸福ね。」

C 二人の間には沈黙が来た。彼らは柱時計の時を刻む下に、長火鉢の鉄瓶がたぎる音を聞くともなく聞き澄すませていた。

「でもお兄様はお優しくはななくつて？」——やがて照子は小さな声で、恐る恐るこゝろ尋ねた。その声の中には明らかに、気の毒こそう響こもきが籠こもっていた。が、この場合信子の心は、何よりも憐憫れんぴんを反発した。

D 彼女は新聞を膝ひざの上へおせて、それに眼を落としたなり、わざと何とも答えなかった。新聞には大阪と同じように、米価問題が掲ひげてあった。

(芥川龍之介『秋』)

(1) 空欄 56 ・ 57 ・ 58 に入る言葉を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- ① 羨望せんぼう ② 後悔 ③ 煩惱 ④ 無邪気 ⑤ 憤怒

(2) A～Dの四つの段落の中に、照子の心情が大きく転換した場面があります。最もふさわしい段落を、次の①～④の中から一つ選びなさい。

59

- ① A ② B ③ C ④ D

10 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本の空間にみられる特性は、従来、気候条件や生産方式によって説明されてきたが、それももちろん妥当な説明である。A、日本の空間には、身体的な快適さや技術にあわせて、60を明確にしない方がよいとする価値観があり、そうした美学が日本の空間の諸形式を決定してきたと思われる。

閑さや岩にしみ入蟬の声 芭蕉

芭蕉によって一挙にその意味の重みが明らかにされた「しみる」という動詞は、日本の文化の性格を説明する述語のひとつである。日本人なら、まず知らない者はいないと思われるこの句は、説明の要もなく、境界についてのメタファである。実際のところ、事象が融合する様相は、美しい風景のひとつの条件として、今日なお日本人の価値観のなかに生きつづけているように思われる。B、融合は、霞と花（桜）にみられる。霞や花は、もともと境界が定かでなく、不定形である。不定形なもの相互の61、判然としない色彩相互の浸透、不安定な音相互の重ね合わせ、これらは、日本中世の絵画や書や音楽の手法というより基本的な特性にみられるばかりでなく、日常の情景あるいは風景にあつて価値づけられていたのではないだろうか。

(原広司『空間〈機能から様相へ〉』)

(注) メタファ——metaphor 隠喩(暗喩)。

(1) 本文中の空欄 60 ・ 61 に入る語を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- ① 風景 ② 融合 ③ 日常 ④ 伝統 ⑤ 境界

(2) 本文中の空欄 A ・ B に入る語を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- ① たとえば ② つまり ③ しかし
④ もちろん ⑤ したがって

A 62

B 63

(3) 傍線部「閑さや岩にしみ入蟬の声」という句の、筆者の論旨に則した解釈として、最も適当なものはどれですか。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

64

① 「しみる」という表現は、蟬の寿命の短さを反映したもので生の切なさを感じさせ、それがまた一生を旅に送った芭蕉の「漂泊」に対する思い入れの強さをも象徴している。

② 「岩にしみる」という表現は、一匹の蟬の声が響き渡っているさまを表現しており、騒がしいものとされる蟬の声が、「閑さ」をより感じさせるものとして美的に描かれている。

③ 蟬の声が岩という強い境界をもつ「物」にしみ入り、「閑さ」の中に吸いとられていくような事象の相互浸透や融合を、一句の中に定着させた芭蕉の高い境地を見出すことができる。

④ 「しみる」という表現は、芭蕉の理想とした境地を説明するために必要なもので、「閑さ」にひたり「静寂」と一体化している芭蕉の姿には、事象を融合する日本人の美意識が示されている。

⑤ 「しみる」という独特の表現から、作者と鑑賞者の相互浸透をよしとする日本人の美意識がうかがえ、日本文化の伝統的な価値観を的確にとらえた蕉風俳諧の質の高さが認められる。